

# 世界自然遺産プロジェクトについて

—国内5自然遺産に見る自然と社会の共生と未来に残すべき人類の遺産—

## 1.プロジェクトの意義

- ・世界自然遺産は地球上の貴重かつ典型的な自然地域を登録し保護しようとするものであり、世界に218、日本に5地域がある。
- ・日本の登録地は、屋久島、白神山地、知床、小笠原諸島と、2021年7月に登録された奄美沖縄（奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島）である（【参考】表参照）。
- ・世界遺産条約は、自然と歴史文化財をひと括りにし、人類が未来に引き継ぐべき遺産として保護保存しようとするものである。このコンセプトは世界各国から大きな支持を受け、もともと成功した国際条約の1つと言われている。
- ・国内自然遺産5地域についても、登録地域ごとに独自の保全、地域づくりが実施されてきた。これらはいわば、SDGsの先取り事例としてみることができる。
- ・また、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」に、自然遺産5地域の実践や、自然と社会との共生＝環境文化という理念の先導性が大きく貢献し、万博テーマの普及や様々な団体等との連携、協働の可能性を高めるものと思われる。

## 2.プロジェクト概要

### (1) これまでの5地域での取り組み

- ・5自然遺産地域では、それぞれ以下のような取り組みが行われてきた。
  - 1) 知床では、
    - \*全国に呼び掛けて開拓跡地を原生林に戻す「知床100平方メートル運動」の実践
    - \*ヒグマ、エゾシカなどの生態研究
    - \*エコツアーガイドと連携して利用者コントロール策を導入し、植生保護、ヒグマに対するリスク管理、快適利用の三者両立を実現
  - 2) 白神山地では、
    - \*世界最大級のブナ原生林を活かした環境学習や森林生態系の研究
    - \*分布が拡大するニホンジカに対する、住民、関係機関の連携による監視等対策の強化
  - 3) 小笠原諸島では、
    - \*ホエールウォッチングや特異な自然・文化を活かしたエコツアーの推進
    - \*島を挙げての外来生物対策や固有種の保護増殖の推進
  - 4) 屋久島では、
    - \*自然保護と暮らしの両立を目指す「環境文化」型地域づくりの普及
    - \*里のエコツアー（島内集落の案内を集落住民が実施）の開発と実践
    - \*水力発電の島であることに着目し「原生の自然を最先端技術で守る」ことをキーワードにした電気自動車の普及

※町役場庁舎は、戦後植林した50年生のスギ材による全木造づくりとして新築(令和2年)、スギ活用技術を開発し、また、CO2を200トン超固定した

5) 奄美沖縄では、

\*かつてハブ対策として導入し増殖した外来種マングースの、徹底的な駆除事業の実施

\*マストツアー・エコツアーの棲み分けと推進

\*民間主導で結成された共同企業体による、電気バスを使用したモデルツアーの実践

\*河川再生、森林伐採の管理徹底など世界遺産員会から出された課題に対し、関係行政機関、地域団体、専門家等が対応策の検討・協議を重ね、合意形成

- それぞれの地域特性に応じたこれらの取り組みは、自然と共生する地域づくりの実践であり、また住民市民参加を事業推進の大きな柱として実施してきたものである。

## (2) 「5地域会議」の設立

- 今後は、それぞれの取り組みを継続、発展させる一方、5地域間で交流を深めるなど、連携を強化しつつ問題や課題に対応していくことが望ましい。
- このため、自然遺産地域の課題や先進的事例等について情報交換しながら連携・協力を図り、日本独自の自然保護理念の提示等に取り組んでいくことを目的に、関係市町村、民間企業、活動団体、関係機関等が幅広く結集する「世界自然遺産5地域会議」（仮称、以下「5地域会議」という。）を設立する。

## (3) 「5地域会議」で想定している事業

- 日本における自然保護は、地域制国立公園（人々の暮らしとの共存を前提に、土地所有にかかわらず保護規制の網をかける仕組み）が主であり、地元市町村や地域住民の役割が大きい。欧米型の厳正保護に比べて緩やかな規制である反面、これから保護と暮らしの両立を目指す途上国などの地域にとっては、よりモデル性が高い保護システムである。今後、世界に向けて、この日本型保護の優れた仕組みをアピールしていきたい。
- 「5地域会議」では、これに向け、以下のような事業を進めることを想定している。
  - 1) 各地域の情報交換の緊密化、連携の強化
  - 2) 世界自然遺産地域の課題や注目すべき先進的事例の収集整理、合意形成
  - 3) 自然保護に係る新しい理念の深化並びに保護と振興の両立モデルの提示
  - 4) 5地域会議からの提言の検討、とりまとめ
  - 5) 政府及び関係行政機関への政策提言
  - 6) 大阪・関西万博 TEAM EXPO 2025 への参画並びにその事業内容及び提言の検討
  - 7) その他5自然遺産地域の保全活用に資する事業

## (4) 会合開催

- 「5地域会議」は、2025年の万博参加に向けて毎年度開催する予定。
- 第1回目は日本の世界自然遺産第1号登録地である屋久島での年度内開催を目指し、「5地域会議」の正式発足を目指すほか、TEAM EXPO 2025「共創チャレンジ」事業内容の具体化検

討などを予定している。

### 3.プロジェクト推進体制

#### (1)「5地域会議」の組織構成

- ・ 5地域には、1道1都4県、22市町村が関わっている（白神山地、奄美沖縄は2県にまたがる）が、22市町村長にはすべてこの会議への参加を要請する。さらに今後、5地域を活動領域とする民間企業、活動団体、関係機関等にも参加を呼びかけて体制づくりを進める。
- ・ ただし当面は、市町村と公益財団法人知床財団、屋久島環境文化財団など一部団体のみでの発足を予定。

#### (2) 事務局及びサポート体制

- ・ 「5地域会議」の事務局は公益財団法人屋久島環境文化財団が担当する。
- ・ 「5地域会議」正式発足までの間、屋久島環境文化財団理事長を代表とし、世界自然遺産地域ネットワーク協議会（2016年に発足、関係市町村長で構成）会長の屋久島町長を副代表として業務を進める。
- ・ また、環境省及び鹿児島県には助言や協力を要請中であるほか、学識経験者を顧問として委嘱することについても検討中。

【参考】日本の世界自然遺産地域の概要

| 名称  | 知床   | 白神山地  | 小笠原諸島  | 屋久島  | 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島  |
|---|--|---|--|--|--|
| 登録年月  | 2005年7月  | 1993年12月  | 2011年6月  | 1993年12月   | 2021年7月  |
| 登録面積  | 71,100ha<br>(海域含む)   | 17,000ha  | 7,900ha<br>(海域含む)  | 10,700ha   | 42,700ha   |
| 自然環境の概要   | <ul style="list-style-type: none"> <li>標高1500m級の急峻な山々、切り立つ海岸断崖、湿原・湖沼群などから構成される、知床半島の中央部から先端の知床岬にかけての陸地と、その周辺海域。</li> </ul>                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>青森県、秋田県にまたがる標高200mから1250mに及ぶ山岳地帯、白神山地の中心部に位置する、広大で原始的なブナ林が残された地域。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>東京から南に1000km離れた位置にあり、海と断崖に囲まれた島々（聳島列島、母島列島、北硫黄島、南硫黄島、西ノ島）。</li> <li>父島、母島は有人島で集落は除外。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>九州最高峰の宮之浦岳（1936m）を主峰として山岳が連座し多数の河川が流れ下る島の中心部から、西の海岸部に及ぶ地域。</li> <li>温暖多雨（年間4000mm）の気候。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>日本列島の南西部に位置する琉球列島の一部の島々の内4島5地域で構成。</li> <li>黒潮の影響を受け、温暖多湿な気候を呈し、主に常緑広葉樹多雨林に覆われる。</li> </ul> |
| 遺産としての顕著で普遍的な価値（要点）<br><br>vii～x（ ）は、登録基準（クライテリア）を示す                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>○海水の影響を受けた海と陸の生態系の豊かなつながり</li> <li>—ix（生態系）</li> <li>○動植物ともに多くの希少種や固有種を含む幅広い生物種が生息・生育</li> <li>—x（生物多様性）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○東アジアで最大の原始的なブナ林で、世界の他の地域のブナ林よりも多様性に富んでいる</li> <li>—ix（生態系）</li> </ul>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>○海洋島※の著しく高い固有種率と現在進行形の生物進化</li> <li>—ix（生態系）</li> <li>※一度も大陸と陸続きにならなかったことがない島</li> </ul>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○樹齢数千年に及ぶ屋久杉巨樹林</li> <li>—vii（自然美）</li> <li>○植生の垂直分布が顕著な島嶼生態系</li> <li>—ix（生態系）</li> </ul>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○島の成り立ちを反映した独自の生物進化を背景とした、国際的にも希少な固有種に代表される生物多様性</li> <li>—x（生物多様性）</li> </ul>              |
| 関係市町村<br>(各遺産地域連絡会議構成員)<br><br>*印は周辺地域<br><br>太字アンダーラインの7市町村は「5地域会議」設立呼びかけ人候補 | 北海道<br><u>斜里町</u><br>羅臼町   | 青森県<br><u>西目屋村</u><br>深浦町<br>鱒ヶ沢町<br><br>秋田県<br><u>藤里町</u><br>八峰町(*)<br>能代市(*)                                      | 東京都<br><u>小笠原村</u>   | 鹿児島県<br><u>屋久島町</u>  | 鹿児島県<br><u>奄美市</u> 、大和村、宇検村、瀬戸内町、龍郷町(*)<br><br>徳之島町、天城町、伊仙町<br><br>沖縄県<br><u>国頭村</u> 、大宜味村、東村、竹富町                                  |